

府中地区都市再生整備計画事後評価シート（原案）に対する意見募集の結果について

番号	ご意見等			ご意見に対する本市の考え方
1	全般 について	専門用語の注釈について	第2期都市再生整備計画(H25～H29)は第2期中心市街地活性化基本計画(H25～H29)と表裏一体の関係であり、広範囲な分野で様々な事業を計画し、それを着実に実践して結果を出してきたことは十分に評価できると思います。 「まちづくり」は一時的なものではなく、その都度、時代の流れを鋭敏に読んで、財政面の負担を十分に検討したうえで継続的に推し進めてゆくプロジェクトであります。	評価いただき、大変ありがとうございます。 本、第2期都市再生整備計画(H25～H29)は、都市計画マスタープランの改正を始め、第1期都市再生整備計画から一貫する継続した事業として行ってきました。今後とも継続的に「まちづくり」を進めていきます。
2	様式2-2 地区の概要の「今後のまちづくりの方策(改善策を含む)」について	計画推進上の財源確保について	改善策としての基本的な考えを記述されているが、もう少し具体的な表現を盛り込んでほしいかと思いがいかがでしょうか。 (1)案として、 「便利な暮らしを維持するため、JR府中駅に南北自由通路等を整備して、路線バスやJR等の公共交通機関の連続性の強化や駅周辺の拠点機能の強化を図り、道の駅やJR府中駅の公共交通結節点としての機能を高める」 (2)(理由)第1期中心市街地活性化基本計画(H19～H23、以降、第1期基本計画)において、「JR府中駅周辺整備計画の策定」を掲げており、この第1期基本計画の実績を評価する段階で、 第1ステージ:駅北側の整備・改善は概ね完了 第2ステージ:JR府中駅南地区の整備・改善が優先すべき課題 第3ステージ:南北の連携 を明示して、平成25～29年度の第2期基本計画にこの第2ステージを重点的課題として採用し、今回の都市再生整備計画の交付対象事業として実施されています。 よって、次の第3ステージも当然ながら今後の実施予定事業の範囲に入るものと思います。 (3)しかし、現実的には、JR府中駅当局的の当事者としての考えがあり、工事費等の 分担等の問題もあって至極難しい折衝になると思います。ある程度の期間をかけて十分に検討し双方の納得のゆく結論を出していただきたい。	JR府中駅、道の駅びんご府中については、それぞれ、一定の交通結節機能を有していると考えていますが、今後、JR府中駅周辺の機能強化を図り、これまで行ってきた南北市街地の整備について、歩行者ネットワークや市街地の賑わいの連続性を図り、交流を促す整備を検討します。 南北軸の形成については、南北自由通路の様な立体的な動線や、道路整備による平面的な整備が考えられるため、本、評価における改善策の基本的な考え方には、南北自由通路等と言う表現をしていません。ですが、頂いたご意見を踏まえ、事後評価シート「今後のまちづくり方策」を以下のように修正いたします。 [改善策の基本的な考え方](修正前) ・便利な暮らしを維持するため、路線バスやJR等の公共交通機関の連続性の強化や駅周辺の拠点機能強化により、道の駅やJR府中駅を公共交通結節点としての機能を高める。 [改善策の基本的な考え方](修正後) ・JR府中駅をはさんだ南北の交流を促し、中心市街地の賑わいを創出するため、JR府中駅周辺の拠点機能の強化やJR府中駅と道の駅を結ぶ南北軸となる歩行者ネットワークを形成する。

ご意見については、文章を要約して掲載しています。